

山岳博物館ゆかりの登山家

日本の近代登山の草分けで、宮城県仙台市出身のまき ありつね榎有恒氏は元日本山岳会会長や名誉会員などを務めた登山家です。1911（明治 44）年、けいおう ぎじゅくだいがく よ か慶応義塾大学予科に入学し、1915（大正 4）年にそうせつ慶応義塾山岳会を創設。卒業後は、アメリカ・コロンビア大学へりゅうがく留学します。

1921（大正 10）年 9 月、27 歳でスイスのアイガーひがし東山稜の初登攀を成功させ世界的な名声を得ます。帰国後には、岩山登りや冬季登山に取り組み始めたばかりの日本の登山界へアルプスの本格的な登山技術を紹介します。

1925（大正 14）年に、カナダのロッキー山脈アルバータ山へ日本最初の海外登山隊隊長としてえんせい遠征し、全員登頂に成功します。1957（昭和 31）年には、62 歳で第 3 次日本山岳会マナスル登山隊に隊長として参加し、初登頂に成功します。この年、文化功労者に選ばれています。

1969（昭和 44）年、若い頃からの夢としていたはや ち早池峰山への初登山を 75 歳で行います。その縁で、大迫町立山岳博物館の看板をき ぎょう揮毫しています。